

学長の業績評価（令和元年度）

国立大学法人富山大学学長選考会議は、「国立大学法人富山大学学長の業績評価に関する申合せ」等を踏まえ、以下の考え方を基本として、令和元年度学長の業績評価を実施したのでここに公表する。

1. 学長の業績評価は、大学の使命達成とさらなる発展に向けて、学長の適切な業務遂行に資するために実施する。
2. 評価の対象は、大学全体の実績に対する「全体評価」及び学長の「個人評価」とし、以下の4項目について実施する。
 - (1) 中期目標期間の大学の業務実績を通じた評価
 - (2) 大学の機能強化の取組と重点支援を通じた評価
 - (3) 大学改革等に向けた取組に係る評価
 - (4) 大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価
3. 大学法人評価等の結果を利用する「全体評価」については、前年度の平成30年度評価をもって本年度の評価とする。なお、「個人評価」としての(3)及び(4)については、参考としての学長ヒアリングにとどめ、本年度は実施しない。

令和2年6月23日

国立大学法人富山大学学長選考会議

令和元年度学長の業績評価

(1) 中期目標期間の大学の業務実績を通じた評価

【評価方法】

法人の中期目標期間に掲げる業務運営や財務内容等に関する目標計画の進捗に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、大学の自己評価による「平成30事業年度に係る業務の実績に関する報告書」及び国立大学法人評価委員会による「平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果」を踏まえた評価とする。

【概要】

○全体評価

学長のリーダーシップの下、デザイン思考の素養を有した創造力のある人材の育成と、人間社会と自然環境とが共生する理想的な社会の実現に寄与することを目的として、地球システム科学科、都市・交通デザイン学科、材料デザイン工学科の3学科で構成する都市デザイン学部を開設した。また、部局横断型の取組による研究活動の活性化や内閣府「地域における大学振興・若者雇用創出事業（計画名称：「くすりのシリコンバレーTOYAMA」創造計画）」に関する業務の支援に向け、統括コーディネーター及び産学連携コーディネーター等を一組織に所属させたURA室を設置し、全学横断的な支援を行うことが可能となった。その他、未来の地域リーダー育成に向けた地域志向科目を2科目新設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

○項目別評価

1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善、教育研究組織の見直しについては、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。事務等の効率化・合理化については、事務組織における恒常的な業務改善を推進する体制を整備している。平成30年度は、職員個々人の業務改善に係る意識醸成を目的として、ボトムアップによる改善案の策定及び比較的容易かつ短期に実施可能な取組の優先を重点事項とし、業務改善については各部課から74件の提案があり、うち53件を実施するとともに、事務職員の時間外労働時間については14,481時間（平成28年度比19.8%）削減され、約3,300万円の人件費削減（平成28年度比）につながっている。

2) 財務内容の改善に関する目標

財務内容の改善については、外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、経費の抑制、資産の運用管理の改善など、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実、情報公開や情報発信等の推進など、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等、安全管理、法令遵守など、中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。

なお、内部統制システムの整備、リスク管理体制の強化、北陸地区国立大学法人の大規模災害対応に関する協定書の締結、富山大学事業継続計画（本部版）の策定、安否確認体制の構築、民間資金によるZEB化実証事業などに取り組んでいる。

○教育研究等の質の向上の状況

自己評価では、教育、研究、社会貢献における取組として、以下の事項が特記されている。

- ・都市デザイン学部の開設
- ・臨床研究管理センターの体制強化、包括的脳卒中センター及び膵臓・胆道センターの設置による体制整備
- ・富山大学病院エクスプレスの実証運行

【評価】

大学の自己評価及び国立大学法人評価委員会による評価結果を踏まえ、順調であると評価する。なお、項目別評価「業務運営の改善及び効率化に関する目標」において、本学の案件が、国立大学法人評価委員会から注目される取組として紹介されている。

(2) 大学の機能強化の取組と重点支援を通じた評価

【評価方法】

大学の機能強化に向けた取組とその重点支援に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、文部科学省による令和2年度国立大学法人運営費交付金に係る「評価に基づく資源配分」の結果を踏まえた評価とする。

【概要】

第3期中期目標期間（2016年度）より国立大学法人運営費交付金に設けられた「3つの重点支援の枠組み」における重点支援①（地域のニーズに応える人材育成・研究を推進）を選択した55大学中での資源配分により評価する。

○成果を中心とする実績状況に基づく配分

各国立大学法人におけるマネジメント面での改革を一層推進するとともに、教育・研究のさらなる質の向上を図る観点から、成果に係る客観・共通指標により実績状況を相対的に把握し、これに基づき運営交付金の一定額が再配分されるもの。

①卒業・修了者の就職・進学率

評価結果：本学の偏差値 55.741，再配分率 105%（配分基礎額 35,116 千円，再配分額 36,872 千円），順位 55 大学中 13 位

②博士号授与率

評価結果：本学の偏差値 56.418，再配分率 105%（配分基礎額 35,116 千円，再配分額 36,872 千円），順位 55 大学中 14 位

③カリキュラム編成上の工夫の状況（ナンバリングの実施，カリキュラムマップの活用，アクティブラーニングの実施等の状況）

評価結果：本学の点数 5.373，再配分率 85%（配分基礎額 30,099 千円，再配分額 25,585 千円），順位 55 大学中 51 位

④常勤教員当たり研究業績数

評価結果：本学の偏差値 48.041，再配分率 100%（配分基礎額 75,247 千円，再配分額 75,247 千円），順位 55 大学中 19 位

⑤常勤教員当たり科研費受入件数・受入額

評価結果：本学の偏差値平均 44.252（件数 43.806，額 44.697），再配分率 95%（配分基礎額 75,247 千円，再配分額 71,485 千円），順位 55 大学中 31 位

⑥若手研究者比率

評価結果：本学の偏差値 42.857，再配分率 85%（配分基礎額 120,395 千円，再配分額 102,336 千円），順位 55 大学中 46 位

⑦常勤教員当たり受託・共同研究等受入額

評価結果：本学の偏差値 44.283，再配分率 90%（配分基礎額 75,247 千円，再配分額 67,723 千円），順位 55 大学中 41 位

⑧人事給与マネジメント改革状況（業績評価，年俸制，クロスアポイントメント等の実績状況）

評価結果：本学の評点 10.0，再配分率 115%（配分基礎額 75,247 千円，再配分額 86,535 千円），順位 55 大学中 4 位

⑨ダイバーシティ環境醸成の状況（教員の外国人・女性・障害者雇用比率，留学生・社会人学生・障害学生比率等の状況）

評価結果：本学の偏差値 46.579，再配分率 85%（配分基礎額 20,066 千円，再配分額 17,057 千円），順位 55 大学中 49 位

⑩会計マネジメント改革状況（学内の見える化と戦略的な資源配分，経営情報の社会との共有等の状況）

評価結果：本学の評点 5.5，再配分率 95%（配分基礎額 75,247 千円，再配分額 71,485 千円），順位 55

大学中 37 位

⑪経営資金獲得実績（寄附金等の獲得実績）

評価結果：本学の常勤教員当たり経営資金獲得実績 1,293,568 円，再配分率 95%（配分基礎額 120,395 千円，再配分額 114,376 千円），順位 55 大学中 37 位

⑫施設マネジメント改革状況（施設マネジメント推進，施設の有効活用，適切な維持管理等の状況）

評価結果：本学の評点 13，再配分率 115%（配分基礎額 30,099 千円，再配分額 34,614 千円），順位 55 大学中 2 位

○独自指標に基づく配分（各大学の評価指標に基づき再配分（機能強化経費の「機能強化促進分」））

各国立大学が機能強化を実現するため自主的に設定した「評価指標(KPI)」に基づく各項目の KPI ポイントの合計から算出した大学全体の評価ポイントに基づき，運営交付金の一定額が再配分されるもの。

本学では，次の 3 つの戦略を策定しそれぞれに「評価指標(KPI)」を設定している。

1. 教育研究組織の再編を起点とした全学的教育改革により，人材育成機能の強化を図る。

[評価指標]

- ①アドミッション・ポリシー見直しによる，A0 入試募集人員数の状況
- ②カリキュラム・ポリシーの見直しによる授業科目改善（学生の授業評価における満足度）
- ③ディプロマ・ポリシー見直しによる，身に付いた能力の学生の自己評価
- ④インターンシップ参加状況

2. 生命科学および自然科学で世界レベルの先端的，独創的，学際的・分野横断的研究を推進する。

[評価指標]

- ①論文数（第 3 期中期目標期間の総数）
- ②論文の被引用数（第 3 期中期目標期間の総数）
- ③共同研究の受入件数（第 3 期中期目標期間の総数）
- ④受託研究の受入件数（第 3 期中期目標期間の総数）

3. 地域活性化の中核拠点として，自治体と連携し，教育・研究・社会貢献の分野において，地域社会の活性化に寄与する。

[評価指標]

- ①地域の自治体・企業等との連携協力に関する協定締結に基づく取組総数
- ②・地域の活性化に関する研究推進のための民間等共同研究員の受入総数
- ③地域を志向した教育の実施状況
- ④社会人を対象とした地域再生人材育成事業の修了者数

評価結果：本学の実績 6 点，再配分率 95.0%（配分基礎額 209,692 千円，再配分額 203,186 千円），順位 55 大学中 40 位

【評価】

「成果を中心とする実績状況に基づく配分」については，概ね良好であると評価できるが，若手研究者比率及びダイバーシティ環境の醸成については，教育組織の基盤に関わる事項であるだけに，強化に向けて鋭意取り組んでいただきたい。「独自指標に基づく配分」については，55 大学中で下位の評価となっている。自主的な対応であるだけに，戦略の策定及び評価指標の設定を含めて，さらなる機能強化に向けて取り組んでいただきたい。